



国土交通省近畿地方整備局

Kinki Regional Development Bureau

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

近畿地方整備局 淀川河川事務所	配布日時	平成29年3月29日 14時00分
資料配布		

件名	淀川河川公園整備・管理運営プログラムを策定 ～平成32年度までの整備及び管理運営の取り組み～
----	---

概要	淀川河川公園では、事業実施過程の透明性確保等を図るため、公園が取り組む整備及び管理運営等を取りまとめた「国営公園整備・管理運営プログラム」（以下「整備プログラム」）を策定・公表し、事業を行っています。 このたび、淀川河川公園の整備プログラム（案）について、平成29年1月31日から平成29年2月27日まで意見募集を実施し、皆様から頂いたご意見を踏まえ、淀川河川公園における整備プログラムを策定いたしました。
----	---

取り扱い	
------	--

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 京都府政記者クラブ 守口記者クラブ 枚方記者クラブ 北摂記者クラブ 八幡市役所記者クラブ 大山崎町記者室
------	--

問合せ先	国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 副 所 長 寺内 雅晃 河川公園課長 片岡 佳三 電 話：072-843-2861 FAX：072-843-0910
------	--

淀川河川公園整備・管理運営プログラムを策定

～平成32年度までの整備及び管理運営の取り組み～

○国営公園整備・管理運営プログラムについて

淀川河川公園では、事業実施過程の透明性確保等を図るため、公園が取り組む整備及び管理運営等を取りまとめた「国営公園整備・管理運営プログラム」（以下「整備プログラム」という。）を策定・公表し、事業を行っています。

このたび、皆様から頂いたご意見を踏まえ、整備プログラムを策定いたしました。

・淀川河川公園 国営公園整備・管理運営プログラム 参照

○整備プログラム（案）についての意見募集結果について

淀川河川公園では、平成29年1月31日から2月27日にかけて、整備プログラム（案）について、広く国民の皆様よりご意見を募集いたしました。

淀川河川公園における整備プログラム（案）にお寄せいただいた11通のご意見と、これに対する淀川河川公園の考え方について、とりまとめたのでご報告いたします。

・国営公園整備・管理運営プログラムに関するご意見 参照

○整備プログラム、意見募集結果の閲覧方法

◆平成29年3月29日より、淀川河川事務所ホームページにて閲覧可能です。

<http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/use/park/program.html>

淀川の魅力を守り、育て、使いこなす新たなチャレンジ

淀川

河川公園整備・管理運営プログラム

今後取り組んでいく平成32年度までの整備及び管理運営方針

平成29年3月

YODOGAWA RIVERSIDE PARK



国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

はじめに

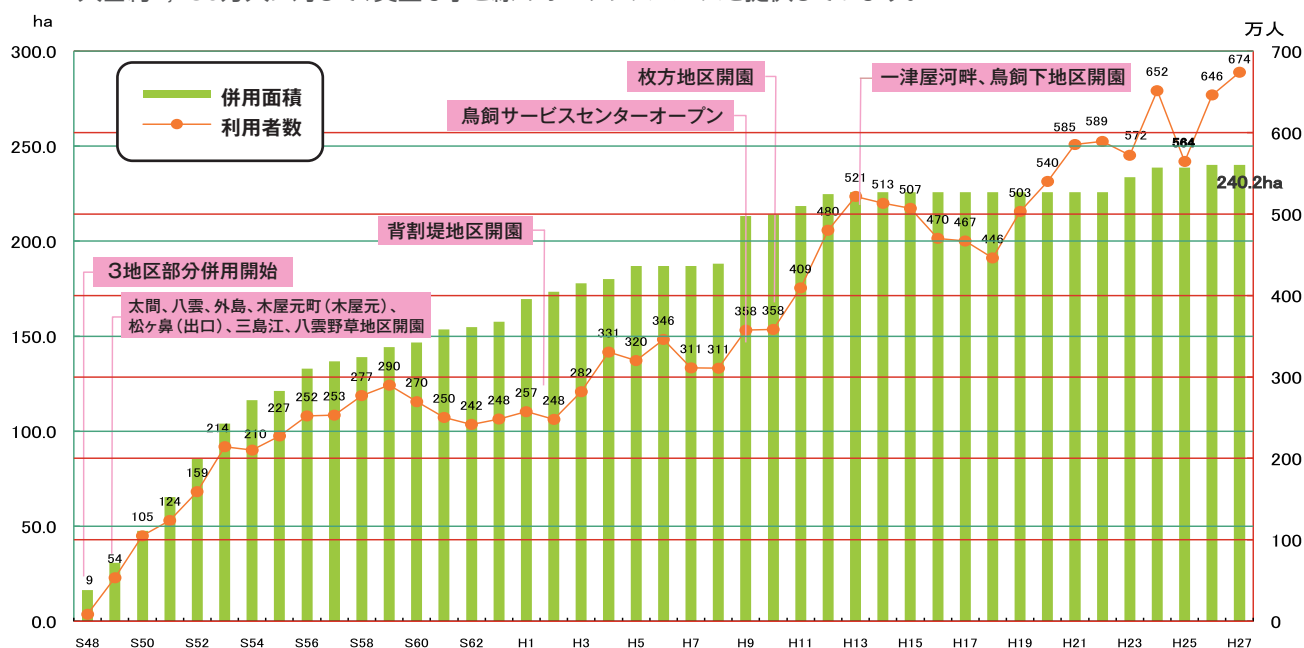
大阪と京都を結ぶ水と緑の安らぎの空間 淀川河川公園

- 淀川河川公園は、大阪湾の淀川河口部（大阪府）から桂川、宇治川、木津川が合流する三川合流域（京都府）までの延長約37kmの兩岸の河川敷に位置する国営公園です。
- 本公園は、昭和39年の東京オリンピック開催を契機としたスポーツ振興が図られる中、都市の過密化によるオープンスペースの不足も相まって、昭和46年の淀川水系工事実施基本計画の改定に伴って生み出される高水敷を、近畿圏の人々に豊かな自然的環境と多様なレクリエーション空間を提供することを目的に整備を開始しました。
- 昭和47年の事業着手から、昭和48年に太間・八雲・外島の3地区の仮オープンを経て、昭和49年10月には7地区を開園、現在は計画面積1,216haのうち240.6ha（大阪府域38地区・京都府域2地区）を供用しています。



淀川の自然と空間を活かした利用の状況

- 淀川河川公園の近年の入園者数は約650万人/年程度となっており、供用開始から累計約1億5千万人以上（平成27年度末）の方々に利用されています。
- 年間を通して、淀川が有する豊かな自然環境の保全・再生に関わるボランティア活動や自然体験プログラム、市民の健康増進のためのマラソンや野球大会といったスポーツレクリエーション行催事など、淀川河川公園を利用圏域とする府県の人口約1,250万人に対して、貴重な水と緑のオープンスペースを提供しています。



2 整備・管理運営の基本方針

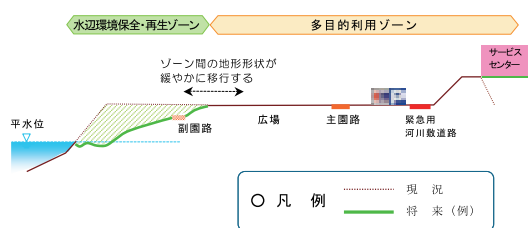
淀川河川公園基本計画が目指す淀川の魅力を活かした公園づくり

- 淀川河川公園では、平成20年8月に「淀川河川公園基本計画」の改定を行いました。
- 計画では、環境保全に対する社会情勢の変化を踏まえた河川法の改正、健康・文化・自然・防災など公園に求められるニーズが多様であることから、新たなゾーニング計画と淀川の魅力を引き出す整備方針、自然環境の保全再生と多様な主体の利用との調和を図るための管理運営方針を定めています。
- 淀川の最大の魅力である川の流れに触れ、淀川の豊かな自然環境や水辺の作法を子どもたちに伝え、次世代に引き継ぐ公園づくりを進めます。

整備・管理のコンセプト図

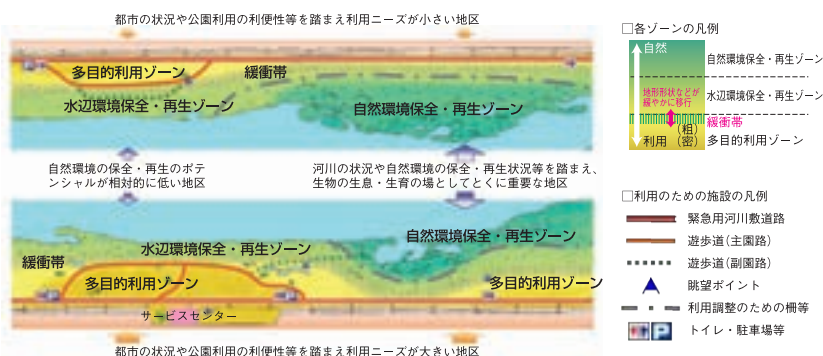


基本計画断面図



低水路と河川敷の段差等により、河川の横断及び縦断方向の連続性が分断されていることから、環境の連続性に留意しながら、自然環境のネットワークや特長ある水辺の景観が保全・再生されるよう図る。

基本計画ゾーニング図



流域地域協議会と地区別整備計画の状況

- 基本計画に基づき、多様な主体の参加と連携を図る公園づくりの推進のため、上流域、中流左岸域、中流右岸域、下流域の4つのブロックごとに利用団体、地域住民、自治体、学識経験者が参加する地域協議会を設置し、整備及び管理運営方針に沿った公園づくりを進めるために必要となるハード整備とソフトの仕組みづくりについての地区別整備計画を順次作業していきます。各地区の特性に応じた検討や管理運営を行うための協議を有効に行っています。

淀川河川公園地域協議会



淀川河川公園整備計画の例



※およそ5年程度を目途として、整備・再整備の実施が見込まれる内容について記載しています。
※地域協議会での議論、治水・環境の観点からの技術的検討、予算状況等により変更となることがあります。

※切り下げ区域は、技術的検討をふまえて位置及び規模を設定します。

3 整備の重点方針

これまでの公園づくりを通し、淀川河川公園は、沿川住民をはじめ、広域圏からの来園者約650万人/年に貴重なオープンスペースを提供してきました。この水と緑のストック効果をさらに発揮し、市民や民間事業者、地域の様々な活動団体に愛される公園とするため、各流域の特性を活かしたリーディング事業として、以下を重点的に推進しています。

上流域 国営公園から発信する地域振興

淀川三川地域づくり事業

- 京都府八幡市に位置する背割堤地区(約11ha)に、地域間交流と地域振興のため、平成29年3月のオープンに向けて「さくらであい館」の整備を行います。本施設では、京都府と周辺市町と連携し、地元の観光資源や食材を活用した新たな賑わいづくりを展開するため、『出会い』をテーマとした様々なプログラムを地元商工会や農協、観光団体等と協働で実施し、日本有数の桜のお花見のスポットである背割堤地区を舞台にした地域を元気にする公園づくりを進めます。
- また、木津川を挟んで立地する背割堤の対岸にある木津川左岸の未供用区域では、さくらであい館から八幡市のまちなか散策へとつながる園路整備や歴史案内板等の整備を行うとともに、京都府域の各公園区域を中心とした周遊促進の調査検討を進めます。
- さらに、海外も含めた多くのお客様のネット接続をよりよくするため、Wi-Fi環境の整備を進めます。



さくらであい館整備イメージ



Wi-Fi環境等の整備による外国人観光客受入環境・情報発信の充実



にぎわい



さくらであい館を活用した周遊促進

中流域 地域参画で描く川の魅力を引き出す公園づくり

点野親水空間整備事業

- 大阪府寝屋川市に位置する点野野草地区(3.6ha)では、ねや川水辺クラブや摂南大学等と連携し、高水敷と低水敷を一体的に利活用できる親水空間の整備を行います。
- 水面まで高低差がある高水敷を切り下げ、水辺へアプローチしやすくすることで、河川公園の最大の魅力である川の流れに触れ、次世代を担う子ども達に水辺のアクティビティを提供できる公園づくりを行います。
- 淀川河川公園基本計画のゾーニングの柱の一つである「水辺環境保全・再生ゾーン」の実現のため、寝屋川の地域力と大学連携と一体となって公園づくりを進めます。

ワンドの環境改善

(ゾーニング計画の実現)
・点野ワンドにおける環境改善のための
植生管理の実施(伐木、外来種の除去等)

水辺環境の再生

(ゾーニング計画の実現・つながりの改善)
・点野砂州付近の高水敷の切り下げによる
水辺との連続性・アクセス性の改善
・本川とワンドとの通水性の改善



点野野草地区整備イメージ

点野親水空間の活動風景



魚捕り体験



楽しい水辺のふれあい体験



水辺のゴミ拾い



Eボート体験



生き物観察会



外来種除去

下流域 淀川河川公園の中心拠点

守口サービスセンター再整備事業

- 大阪府守口市に位置する守口地区(1.8ha)では、公園全体の管理機能の中核を担う守口サービスセンターの再整備に着手します。
- 設置から約30年が経過していることを踏まえ、健康増進など時代にあった新たなニーズに対応するため、今後、下流地域協議会を中心にした検討プラットフォームを立ち上げ、利用者がゆったりと憩えるサービス提供機能や淀川河川公園のインフォメーション機能等を有する公園サービスの中心拠点の整備に向けた検討に着手します。

これらに加えて、各地区の整備計画に基づいた便益施設やアクティビティ施設の再整備などを進め、淀川河川公園の利用向上に資する公園づくりを進めます。

4 管理運営の重点方針

供用開始から約40年の間、淀川河川公園は大都市近傍の貴重な水と緑のオープンスペースだからこそ行える自然体験、スポーツ振興、関西を代表する花火大会の会場として活用されてきました。今、淀川の魅力に再注目する経済界との連携や、高齢社会に対応した健康づくりのフィールドとして、新たなニーズに対応できる淀川河川公園の管理運営を展開します。

歴史文化・水辺の体験プログラムの提供

- 淀川を知ることは、関西の水の歴史を知る事であり、沿川の各所には淀川の昔を物語る歴史資源が今もなお数多く残っています。
- 春や秋の行楽シーズンには舟運事業と連携した散策ツアーや、気軽に楽しめるカヌー・ボート体験を通して淀川の歴史文化と水辺の学習プログラムを提供します。
- さらに、淀川をフィールドに活躍する様々な地域の活動団体とのネットワークを広げ、淀川だからこそ体感できる水と緑にふれあえる機会を創出します。



水辺の体験学習



歴史散策ツアー



サップ体験

サップとは

スタンドアップパドルサーフィンとも言われサーフボードより大きめのボードに立ちパドルで漕いで海や川と場所を選ばず遊べるウォータースポーツ。

ワンランク上の都市型アウトドアの創出

- 大阪市淀川区に位置する西中島地区と十三野草地区は、対岸に大阪最大の都心である梅田の市街地が広がっており、夕暮れや夜景を楽しめるスポットです。
- この都心に近接した水辺空間の魅力を引き立てる新しい公園づくりのため、民間事業者からの創意工夫ある事業提案を公募型で受付ける「淀川アーバンキャンプ」を大阪商工会議所等と連携して継続的に実施します。
- また、駅近傍の立地特性を活かして、ファミリー世代と仲の良い仲間達でマナー良く楽しめるようバーベキュー有料化事業を行い、近畿一円の市民の方々に、水と緑でいっぱいの淀川を好きになっていただきます。あわせて有料化事業の継続実施によるバーベキュー利用の適正化を図ります。



アーバンキャンプ



夜の淀川をおしゃれに演出

国営公園からの健康づくりプログラム

- 高齢化社会が進む中で健康づくりの気運が高まっていることから、一層淀川河川公園を活用して、健康づくりと体力向上に励んでいただける公園プログラムを実施します。具体的には、ハンディキャップをお持ちの方もそうでない方も一緒にマラソンやレクリエーションを楽しめる「ふれあいマラソン」や、「スロージョギング」、「ノルディックウォーク」などのプログラムを提供します。
- 他の公園利用や自然環境との調和を図りつつ、近年利用の多いサイクリングやグラウンドゴルフをはじめ様々なスポーツ利用の場を提供します。



ふれあいマラソン



スロージョギング

淀川を満喫する緑の空間演出とその利活用

- 河川に咲く野の花や植栽花木を活かした風景づくり、背割堤の桜並木の健全育成、季節を彩る草花で公園の四季を演出し、来園者の目を楽しませる緑の空間を作ります。
- この緑の空間を使って、マルシェや野草観察会等の自然体験プログラムなど、地域の様々な活動主体とともに利活用していきます。
- これまで利用中心の広場機能を維持する草刈りを行っていましたが、河川の自然生態系に配慮する草刈りを行うため、年間の刈込回数をエリアごとに増減させる回数調整を行います。



背割堤の桜並木



花修景

快適性と安全性を目指した質の高いサービス提供

- 公園の利用向上を高めるため、日常的に公園施設の点検を行うとともに、長寿命化計画を実態に即した形で適宜改訂しながら、老朽化したトイレ等の便益施設の更新を行います。
- 地元自治体等と連携した防災訓練を行い、治水上の安全性の意識啓発を図ります。



施設点検



水防訓練

5 事業効果

淀川河川公園は、“近畿のグリーンインフラ”として供用開始から累計約1億5千万人以上の方々に利活用いただけてきました。その中でも、年間約20数万人が西中島地区のバーベキュー有料事業を通して楽しい余暇時間を過ごしていること、1万人の市民マラソン大会が20年間継続開催していること、さくらであい館の整備を契機に地域振興の取組が進んでいること、大阪商工会議所をはじめとした経済界が新たな賑わい創出の可能性を見いだす淀川アーバンキャンプがスタートしたことは、淀川河川公園のストック効果の代表例であり、時代に即した多様なサービスを提供できることを、多方面に認識していただいているとも言えます。これまで育んできたこれらの魅力を守り続けることを念頭に、これからも、市民や民間事業者、地域の様々な活動団体とともに淀川河川公園という貴重なストックを育て使いこなし、訪れる方々の笑顔がはじける公園づくりのチャレンジを展開していきます。

多くの都市住民に淀川を訪れ知る機会を提供

- 広がる大空や水と緑の空間を満喫していただける淀川アーバンキャンプ2017や健康づくりプログラム等を通し、都心のど真ん中に、貴重な水と緑の資源の宝庫が存在する価値を知っていただくとともに地域の商工会やNPO団体などと新たなプログラムの実施につなげます。



アーバンキャンプ

2016年9月に9日間開催、約1000人の来訪、30の事業者が公募参画、2017年も継続開催。

淀川が育む貴重な歴史文化の体感・自然環境の保全

- 淀川の歴史文化をテーマとした舟運やウォーキングプログラム、地域参画による水辺プログラム等を通し、淀川がこれまで育んできた人と川との関わりを体感できる場の提供、都心に残された貴重な水辺空間の保全を地域と連携しながら進めます。



カヌー体験



サイクリング

地域活性化とコミュニティ形成の場

- さくらであい館を農協や商工会が活用しマルシェ等を開催することで、地元物産と連動させた地域活性化が進むとともに、周辺地域の歴史・観光の情報発信機能が発揮され、国営公園から地域へと周遊をつなげ、新たな出会いの場となるコミュニティ形成が図られます。



お花見どころで宇治茶をおもてなし

地域食材を利用したクッキング

安全・安心を支える管理・防災機能の発揮

- 安心して公園を利用していただくための利用調整や安全確保、適正な施設管理の司令塔となるサービスセンターの再整備を行うことで多くの来園者と地域のコミュニティの安全安心を支えます。また、大災害に備え、地元自治体と連携した水防訓練の場として、安全・安心の拠点として活用されます。
- 本整備プログラム期間中に、淀川河川公園のポテンシャルをフル活用した公園サービスのさらなる向上を目指します。



サービスセンターの利用窓口

本プログラムは、今後の社会情勢を踏まえ、必要に応じ見直していきます。

国営公園整備・管理運営プログラムに関するご意見

種別	ご意見の要旨	ご意見に関する回答
はじめに	平成27年の利用者数が推定で646万人利用している数字に、意外と多いことを知った。	これから多くの来園者に愛される公園づくりを進めていきます。
整備・管理運営の基本方針	次世代に、特に自然環境との関わりを大切に計画された方が良い。	次世代へ引き継ぐ公園づくりを進めていきます。
	利用者の多様化が進む中で、公の責任から自分のことは自分で守る、自己責任の定義が抜けているように考えます。事業効果を更に効果的に展開させるためにも、自己責任の定義は必要と考えます。	淀川と人との関わり方を伝えることは重要であるため、管理運営の基本方針に、「淀川の最大の魅力である川の流れに触れ、淀川の豊かな自然環境や水辺の作法を子どもたちに伝え、次世代に引き継ぐ公園づくりを進めます。」を追加しました。
整備の重点方針	「アクティビティ」の表現が抽象的で分かりづらい。	具体的な例として、魚採り体験やEポート体験の写真を掲載しております。
	大山崎地区における未供用部分については、親水公園として、魚棚などの整備により、親子連れが水辺で楽しめるような空間整備を望んでおります。	大山崎地区は、今後、京都府域における周遊促進や観光事業の促進を進めて行きたいと考えております。桂川河川敷公園との一体利用や、災害時に公園を広域避難地とするため、まちと淀川とをつなぐ取り組みが重要と認識しており、大山崎町と連携しながら本整備プログラムの期間において、具体的な公園づくりの方向性を検討していきたいと思います。
	整備の重点方針について、大山崎地区の整備について記載していただきたい。	
管理運営の重点方針	「サップ体験」の意味が分かりづらい。	次世代を担う子供たちに水辺に親しんでもらうことで、水辺の作法を学習することを目指しております。また、サップに関する説明を追加しました。
	公園での健康増進やスポーツ利用についてきちんと位置付けていただきたい。	管理運営の重点方針に、「高齢化社会が進む中で健康づくりの気運が高まっていることから、一層淀川河川公園を活用して、健康づくりと体力向上に励んでいただける公園プログラムを実施します。具体的には、ハンディキャップをお持ちの方もそうでない方も一緒にマラソンやレクリエーションを楽しめる「ふれあいマラソン」や、「スロージョギング」、「ノルディックウォーク」などのプログラムを提供します。」 「他の公園利用や自然環境との調和を図りつつ、近年利用の多いサイクリングやグラウンドゴルフをはじめ様々なスポーツ利用の場を提供します。」を追記しました。
	管理運営の重点方針について、「さくらであい館」の利活用について記載していただきたい。	さくらであい館の利活用については、事業効果「地域活性化とコミュニティ形成の場」に記載しております。
その他のご意見	「多くの都市住民に淀川を訪れ知る機会を提供」や、「地域活性化とコミュニティ形成の場」等の事業効果を高めるためにも、草刈り等の実施計画を含めた、利用者の利用し易い整備・管理運営を検討していただきたい。	淀川河川公園基本計画に基づき河川の自然生態系に配慮する草刈りを行うため、年間の刈込み回数をエリア毎に増減させる回数調整を行っております。年間予定されている地元の各種イベントを参考にしながら、可能な限り実施イベントと調整を図った草刈りを行っていきます。
	一般道を使わずに移動できるサイクルロードやポケットエリアを設けて、自然とふれあいスポーツできる、レクリエーション空間を整備してはどうか。	ご意見をふまえ、サイクリングなどの周遊観光に寄与する公園づくりについて調査検討を進めていきます。
	大阪市域において、再整備や新たな管理手法の展開に加え、引き続き新設整備の推進に取り組んでいただきたい。	ご意見をふまえ、市民にとって憩いの場、レクリエーションの場となる公園づくりについて調査検討を進めていきます。
	街の中の貴重なオープンスペースとして、個人1人から各団体まで、公平に利用出来ることを原則として、何時でも高齢者が利用出来るに最大の配慮もお願いしたい。	今後の運営維持においても、適正な利用調整に努めてまいります。
	幅広い利用者が使用するため、安全・安心な緊急連絡がいつでもとれる設備を数キロ毎に設置することも検討されたい。	河川公園であるため、増水時も考慮すると施設の設置は難しいですが、安心して公園を利用いただけるよう、巡回などの管理に努めてまいります。
		その他、いただいたご意見をふまえ、語句修正等、「淀川河川公園整備・管理運営プログラム」に反映させていただきました。